

丸山湿原群保全の会会報

(第 196 号)

発行日：2023 年 (R5) 11 月 15 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com

保全の会 HP・blog

戦争は最大の環境破壊と差別を生み出します！

先日、テレビを見ていると（実はテレビっ子）学生の団体「SHIRORU」の紹介がありました。主にパレスチナ問題を中心に、専門家や政治家ではない大学生が、「素人」だからこそ「知ろうと」することが目的だそうです。「知ったからこそ、何かしなければいけない」との内容でした。今の学生さん（Z 世代？）は物欲があまりなく、元気もあまりないとばかり思っていました。社会問題には結構敏感に反応しているようです。

テレビや新聞ではなく SNS 中心に情報を集め「つながり」を作っていく。小さな「つながり」が大きなムーブメントに。Z 世代に期待します。

「知る」こと、「興味」「関心」を持ち続けることの大切さを再認識させてくれました。興味があり「知る」。「知る」ことが次の行動につながるかもしれない。「知ると」選択肢は確実に増える。いわゆる「引き出しが多い」状態に。

環境学習のとき、子どもたちの「なんで？＝知りたい」という声にちゃんと答えられているのか？ひょっとしてつぶしているのではないか、自問自答しています。今からでも遅くはない。私たちも興味を持ち、「知る」。そして「なんで？」をともに考え「答える」ようにしていきたいと思えます。そして、できたら行動。（できたらね…無理は禁物）（今住 11 月 13 日作成）

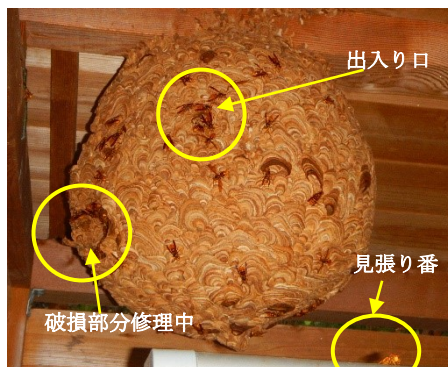
キロスズメバチのその後 ★まだ頑張っています！（11 月 12 日現在）

続報です。ボチボチ終盤には違いないのですが、ハチの活発さは変わらず。ただありがたいことに、その後「苦情」は一切来ず。皆さん温かく（恐れながら？）見守ってくださっているようです。

前回紹介した時より巣は一回り？二回り？大きくなっています。「頑張ったね…」そこで疑問が。ハチの巣って？何がかと言うと、巣は当然外へ外へと大きく膨らみます。あの縞々模様はかじってきた木の種類の色。巣の周りにとりついているのは巣の増設と補修を担うハチ（大工方？）。でも、外へ外へ膨らむと外壁は分厚くなる一方。断熱効果抜群にしているのか？しかし当然、巣を大きくしているのだから本来の巣（ハニカム構造のやつね）は中で増えているはず。調べてみると（蜂になって体験したわけではありませんので本当かは不明）内壁を中のハチがかじり取り、ハニカム構造の卵部屋（棚状）を作っているそうです。以前にも紹介しましたが、オオスズメバチは土の中に巣を作るので外壁は必要なし。それぞれ何か戦略があって、それぞれの形になっているのでしょ



8 月 28 日発見時



11 月 2 日現在の大きさ

ね。アシナガバチ系はぶら下がっているだけだし…小家族。キロスズメバチは超大家族なのでここまで大きくできるのでしょう。またまた疑問が湧いてきます。大きな巣からは多くの女王バチが誕生するのか…そうでないと

大きく作る意味がないのでは？そしてもう1つ。オスも多く生まれるのか？より多くの遺伝子を残すために？夜も眠れなくなりそうですのでここまでで…。ご存知の方は教えてください。そうそう、ハチも一括りにしてはいけません。寄生バチや、ハナバチ、ミツバチ、ドロバチ…。世界に約 20 万種以上、日本には 4000 種以上いるそうです。私が知っているのはほんの数種類。

キロスズメバチ (黄色雀蜂) は 10℃以下では活動できないと言われていています。今日の最高気温は 14℃ (12 日)。ぼちぼち動きが鈍くなってもいい時期ですが、今日もそこそこ頑張っていました。寒い日が続かないとね～。中で女王バチやオスが誕生しているのでしょうか？あ～世の中、知らんことばかりや。

定期活動 ★10月22日(日) 作業、竹筒ポスト前のササ刈り 9名で作業

「北摂里山博物館構想検証委員の里山視察」ご案内 8名様

通常活動日ですが、今日は「検証委員」御一行の案内も。「なに？」と。「丸山湿原群」は「北摂里山 34」に入っています。「北摂里山博物館構想」で北摂の代表的な里山として守っていこうという主旨です。松尾湿原、皿池湿原、西谷の森公園など。合言葉は「ひと、さと、ずっと」。

ボランティア活動支援や里山大学(担い手養成)の実施、エコツーリズムなど様々事業がなされ



咲き誇るウメバチソウ



ウメバチソウに思いをはせ、黙々とササ刈り

てきました。「構想」から 10 年を超えることから、これまでの成果を検証するための視察。「構想」と言っても「地域まるごとのミュージアム(博物館)」で建物が建つ訳ではないから「構想」のままの事業。名前はちとわかりにくい…。内容も間違っているかも。違ったら次回訂正します。

会員はササ刈り。**ウメバチソウ (梅鉢草)**、全盛期少し前。まだ湿原内の刈り取りはできません。作業中の会員を残し湿原へ。ウメバチソウが迎えてくれました。**ヌマガヤ (沼茅)** も順調に穂を出して美しく輝いています。しかし水が少ない。水の少ない湿原は案内していて悲しいやら寂しいやら…。私に責任があるわけではありませんが。どう評価されるのかが気になるところです。ただ委員長からの「湿原の管理は本当に大変ですね」の一言が身に滲みました。

さて、ササ刈りは「スズメバチの巣

問題」もあり、刈り払い機は使わず地道な手作業。伸びたササをひたすら刈り取り。低い位置にある「**アリマコスズ (有馬小篤)**」はなるべく残し、相当真面目に。やっぱり「検証委員」の来訪で身が引き締まったのでしょうか？いつもちゃんとやっていますが…。ゆるゆるの団体とは言っていますが、実は照れ屋さんなんです。ホンマかいな？



一面 ウメバチソウのお花畑！ 第3湿原

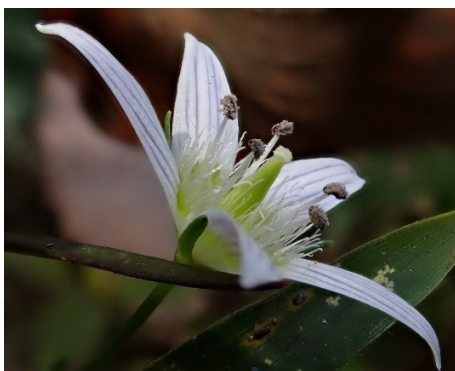
希少種情報 イヌセンブリの新産地 (丸山ではなく西谷地域内) 会員が発見！

丸山エリア内ではありませんが、西谷地域内で新たな**イヌセンブリ (犬千振)** の生育地が確認されました。イヌセンブリは環境省 RDB II 類、兵庫 RDB C ランクに指定される希少種。皿池湿原入口付近にも生育、自慢される植物です。(ずいぶん前に「丸山にはないよね」と) やっぱり丸山にはないのですが、これまで西谷で確認されていたのは 3 か所。(会員 M 調査) 今回の発見で 4 か

所となるようです。センブリは比較的よく見られますが（最近減少中）このイヌセンブリは池の土



イヌセンブリ ヒゲ？がモジャモジャ



センブリ ヒゲは比較的少ない

手のような、比較的湿り気の多い明るい草原に生息。センブリはより乾いたところに生育します。葉っぱもセンブリより幅広。センブリの葉が超苦い（干振茶で有名）のに対し、イヌセンブリは「ちょっと苦い？」程度。薬にはならないようです。「役に立たない」「センブリではないセンブリ」という意味で「犬」がついたようです。「イヌ」は本来「犬」ではなく、古語「いな（否定）」の終止形から来たという説を信じたい。犬は古来より「人類の友人」。役に立たないわけがないと私は思います。こんな風に言ったら、世の中に「役に立たないものはない！何かしら意味を持っている！」と言われそうですが…。名付け親は「牧野はん」でしょうか？多分、牧野さん。和名は結構安易につけられるもののようです。

そうそう、イヌセンブリの一番の特徴は花。蜜線の周りにモジャモジャの毛がたくさん生えています。蜜を吸いに来た虫がより暴れるように（受粉・送粉のため）工夫したのでしょうか。

激減の理由は環境の変化。池の土手の手入れ不足。逆に刈りすぎ。池の改修や湿地の乾燥化かな？人が作った環境に適応して育ってきた生き物が、人の都合により環境を改変、または放置され消えていく。共生関係が崩れてきている「今」です。里地里山の生物多様性は「人」にかかっています。またまた、「気づき」「興味」「よく知る」ことが大事なのでは、と思います。

まずは「生物多様性ってなんや？」からスタート！

手のような、比較的湿り気の多い明るい草原に生息。センブリはより乾いたところに生育します。葉っぱもセンブリより幅広。センブリの葉が超苦い（干振茶で有名）のに対し、イヌセンブリは「ちょっと苦い？」程度。薬にはならないようです。「役に立たない」「センブリではないセンブリ」という

丸山湿原セミナー2023

自然史講座

11月23日(祝) 10:00~12:00
 場所 兵庫県立宝塚西谷の森公園 多目的室
 無料 先着40名

①セトウチサンショウウオの話
 講師:清水 勲 さん
 (西谷の森公園ボランティア)

②生物多様性について
 講師:武田 義明 さん
 (神戸大学名誉教授 放送大学客員教授)

※午後には公園内でフィールドワークを予定しています
 (公園内観察 13:00~15:00 希望者のみ)

《お申し込み》
 兵庫県立宝塚西谷の森公園
 TEL 0797-91-1630 FAX 0797-91-1631
 Mail : info@nishitaninomori.jp

丸山湿原エコミュージアム推進協議会
 兵庫県阪神北県民局・宝塚市・宝塚西谷の森公園(共部)
 環境都市宝塚推進市民会議(後援)
 丸山湿原群保全の会(実施団体)

たからづか

市民環境フォーラム2023

共催：環境都市宝塚推進市民会議、宝塚市自治会連合会、宝塚市

12/2 (土) 13:00~16:00

場所：宝塚市立中央公民館ホール
 定員：80名（申込多数の場合は抽選）
 対象：どなたでも

プログラム

- ★講演会「宝塚を生きものにぎわうまちに」
- ★市内環境保全団体の活動発表や学生の研究発表
- ★環境啓発ポスターや環境衛生実践功労者の表彰

お申込み方法（2023年11月19日（日）まで）

市ホームページ、FAX、はがきでのお申込みが可能です。以下の必要事項を記載のうえお申込みください。

①「環境フォーラム」参加希望である旨 ②代表者氏名（ふりがな）
 ③ご年齢 ④郵便番号 ⑤ご住所 ⑥電話番号（自宅と携帯） ⑦メールアドレス ⑧参加希望人数 ⑨同僚者のお名前とご年齢

お問い合わせ・お申込み先はこちら
 ☎ 0797-77-2070 FAX 0797-71-1159
 環境都市宝塚推進市民会議事務局（宝塚市環境政策課内）
 〒665-8665 兵庫県宝塚市東洋町1-1

お申込みフォームはこちら↓

11月23日(木・祝)に「西谷の森公園」でセミナーがあります。

「セトウチサンショウウオの話」や「生物多様性とは」をテーマに実施。ぜひご参加ください。チラシ再掲します。参加会員の方はお弁当の予約を受け付けています。ご連絡ください。

ついでと云っては怒られそうですが、「環境都市宝塚推進市民会議」（「保全の会」はメンバーです）主催の「たからづか市民環境フォーラム」も「生物多様性」がテーマ。今年は遠藤知二さん（神戸女学院大学名誉教授）の講演。「宝塚北高校生物部」の発表。「櫻守の会」の発表が予定されています。「地球温暖化」と「生物多様性の減少」は環境問題の最重要課題です。「経済・経済・経済」も大事ですが、ベースとなる棲家の問題。

これを経済に結び付けるのも付けられないのも「人」次第。ビジネスチャンスでもなんでもいい。この2つを土台としてすべてを考えて欲しいものです。なんか今回は押し付けがましくて申し訳ありません。

定期活動 ★11月11日(土) 基礎調査 8名で活動

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山湿原	27	53	入口	10:06	13.8℃		
登山・ハイキング	55	55	第3湿原	10:35	【13.9】	55.6 μS/cm	5.7
散歩	5	7	視点場	10:48	19.1℃	44.3 μS/cm	5.1
			第1湿原	10:56	【13.9℃】	44.6 μS/cm	5.7
			第2湿原	11:27	【13.8℃】	48.0 μS/cm	6.0

来場者数計 202 人
(竹筒ポスト集計)



ミミカキグサは咲いているが水は少ない(ない?) もちろん、紅葉も進んで水の蒸散量、気温の低下で奪われる水の量は減っているはずですが…水源?の湿原すら十分潤すことができていません。

葉が落ちた後の木の実が美しい。となると「味見」。食べてみたくなります。ガマズミ類は定番。今回はウメモドキ、カマツカにも手を伸ばしてしまいました。一般に「赤い実」は食べられると言われています。闇雲に信じるとえらい目に遭いますが、「うまい、まずい」は別として毒がないことが多いようです。

試食結果 (実は私行ってません 会員報告)

よく熟したコバノガマズミ(小葉莢蒾)は「渋みはなく、酸っぱ甘い! ザクロのよう。」(ホンマかいな?)

ウメモドキ(梅擬)はネットに「ウメモドキの実を食べようと思えば食べられます」とありますが…「土臭いニンジン的でいまいち。」(納得)

カマツカ(鎌柄)は「酸味や渋みが少なく美味!」。ネットAIでは「カマツカの実を食べても毒はありませんが、酸味が強いので食用にはされません。」と。食べるタイミングと個人の味覚の問題か。種が大きい?ので果実酒向きだとか。バラ科なので香りがたつ?オオウラジロノキの小リンゴと同じや!以上会員(香りの専門家)の談でした。(一部脚色あり)



ウメバチソウの終わった姿 飾り雄蕊と子房

ウメバチソウは全盛期を早くも終え(花期が短かった)枯れ始めています。でもまだまだ終盤の花は残っています。毎年書いている「残り香=残った飾り雄蕊」も美しい。種子をパンパンにため込んだ子房とともに。いよいよ冬に突入!秋はどこ行った?

♪ちっさい秋、ちっさい秋、ちっさい秋もなくなるの~~?♪ (by サトウパチロー)

冗談では済まされないと思いますが…現実。出来ることを…そうそう「北摂里山愛す会」との協働よろしく願いいたします。一般の飛び込み参加も歓迎いたします。(11月26日(日))



コバノガマズミの実



ウメモドキの実



カマツカの実